

2023年8月ミサを生きる（18）感謝の典礼4

ミサを生きる（18）【感謝の典礼】（4）

■ 奉献文（エウカリスティアの祈り）

ここで祭儀全体の中心であり頂点である感謝の祈り（奉献文）、すなわち感謝と聖別の祈りが始まる。司祭は会衆に、祈りと感謝のうちに神に心を上げるように招き、共同体の名によって、イエス・キリストを通して聖霊において神である父にささげる祈りの中で、会衆とともに一つになる。この祈りの意義は、信者の集まり全体が自らをキリストに結び合わせて、神の偉大なわざを宣言し、いけにえを奉献することにある。一同は、尊敬と沈黙をもって奉献文を拝聴しなければならない。

奉献文（エウカリスティアの祈り）を構成するおもな要素は、次のように区別することができる。

a) 感謝（とくに叙唱において表現される）

司祭は、聖なる民の全体の名によって、神である父の栄光をたたえ、救いのわざ全体のため、または、日、祝祭、季節に従って、それぞれの特別な理由のために感謝をささげる。

※奉献文（エウカリスティアの祈り）の最初に司祭は叙唱を唱えます。

叙唱は典礼歴において祝われる祝日や季節に合わせて選ばれる幾通りもの多様な形式があります。

最後の晩さんの中心部に移る前に、叙唱が唱えられることにより、最後の晩さんがイエス・キリストの十字架の死と復活という決定的な救いのわざを示すものであることが明確にされます。この叙唱において明らかにされる救いの歴史と展望において、父なる神から遣わされた救い主イエス・キリストの使命が描かれます。

b) 応唱 ー 全会衆が天の諸能力に合わせて、感謝の賛歌（サンクトゥス）を歌う。

この応唱は、奉献文（エウカリスティアの祈り）そのものの一部をなしており、全会衆が司祭とともに述べる。

※感謝の賛歌（サンクトゥス）

叙唱に続く感謝の賛歌（サンクトゥス）は、イエス・キリストによってもたらされた、神の救いのわざをたたえる歌です。この歌のことばは、旧約聖書に描かれている天上界の天使たちが永遠にわたって神をたたえる賛美の歌です。同じ歌はイエスのエルサレム入城の際、イエスを迎えた人々によって歌われています。